



軽防協ニュース速報

2012年第2四半期(4月－6月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

2012年9月配信

オーストラリアからの報告提供時期の変更に伴い、同国のレポートは、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。以下に、2012 年第 1 四半期のレポートを記載する。第 1 四半期のために報告された情報であることに注意していただきたい。その後、その他の国の 2012 年第 2 四半期のレポートを通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2012 年第 1 四半期の報告

Animal Health Australia (AHA)

Animal Health Surveillance Quarterly (AHSQ)

(<http://www.animalhealthaustralia.com.au/status/ahsq.cfm>)

州および準州の報告

オーストラリアでは、動物の疾病管理に関しては、州と準州がそれらの領域内で責任を負っている。国内動物衛生プログラムは動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局 (AHA) によって管理されている。

北部特別地区

(資源省 フランソワ・ヒューマンによる報告)

呼吸器感染症 (外来病の除外例)

テナントクリーク産の 3 歳のクォーターホースが罹患肢の変わりやすい跛行を伴う運動失調および移動を嫌う状態となった。続いて、下顎の腫脹を伴う呼吸器症状を呈し、嚥下困難となった。血液検査によりヘンドラウイルス感染症、アフリカ馬疫および馬ウイルス性動脈炎の陰性が確認された。

2 週間後の回復期に血清サンプルを採取し、血清学的にアルボウイルス感染症、馬伝染性貧血もしくは EHV-1 の感染は否定された。この期間、患馬は持続的な軽度の発熱を認め、NSAIDs および抗菌薬で治療された。しかし、状態は改善せず剖検のため安楽死処置が実施された。

病理組織学的に重度の化膿性気管支肺炎、下顎の蜂窩織炎およびリンパ節炎が確認され

た。また、患馬の肺から類鼻疽の原因菌である *Burkholderia pseudomallei* が分離された。

下顎骨線維性骨形成不全症

ダーウィン産の 7 歳牡馬ウェイラーホースが、重度の顔面腫脹を呈した後に安楽死処置となった。2010 年に同様の臨床症状がこの馬で見られたが、症状は軽度であり回復したと思われた。

この馬の肉眼的解剖所見として頭部の巨大化が認められた。この疾患は飼料中のカルシウム・リンのアンバランスにより発症し、若齢馬が影響を受けやすい傾向がある。カルシウムの欠乏もしくはリンの相対的な過剰が原因となりうる。飼料中のシュウ酸の過剰もカルシウムの吸収阻害に関係することがある。この疾患の罹患率は、個体間および家族間で差異があるようだ。

この施設の他の 4 頭も罹患馬と同じ飼料を与えられていたが、同疾患の臨床症状は認めなかった。ペレット飼料の多給や不規則な給餌が罹患馬の顔面腫脹の要因となっている可能性がある。

腎臓、線維性骨形成不全および上皮小体機能亢進症に関連する病態が認められない以上、病理組織学的な症状は、長期的なカルシウム欠乏を招いた栄養の問題によって発生した二次的なものであるだろう。

クイーンズランド州

(クイーンズランド農林水産部、シャルロット・ウィリアムソンによる報告)

ウマヘルペスウイルス感染症 (EHV-4)

2012 年 3 月、EHV-4 がトゥウンバの 1 施設において 10 頭中 1 頭で確認された。罹患馬は 5 歳牝馬のサラブレッド混血クォーターホースで発熱と水様性鼻漏を認めた。鼻汁スワブの PCR 検査により EHV-4 と診断され、A 型インフルエンザおよび EHV-1 は陰性であった。オーナーは罹患馬の隔離を指示され、罹患馬はその後回復した。2012 年 5 月上旬、同様の症状で治療を受けていたコンパニオンホースは PCR にて EHV-1, 4 とともに陰性であった。他馬も同様であった。EHV-4 はウマの鼻肺炎の原因となり、伝染力が非常に強い。一旦感染すると、ウマはウイルスの潜在保菌馬となる。EHV-1 および EHV-4 はワクチン接種で予防できる可能性がある。

ヘンドラウイルス

2012 年 1 月上旬、タウンズビル地域において急性の全身性神経性症状を呈したウマでヘンドラウイルス感染症が確認された。3 歳牡馬で沈鬱、失明、運動失調、中程度の心拍および呼吸数の上昇、発熱 (39.9°C)、口腔粘膜の充血、毛細血管再充満時間および血液凝固時間の延長、イレウス、顔面浮腫および両側性水様性鼻漏が認められた。担当獣医師は患馬の治療、検査、サンプリングの際に適切な自己防護器材および手技の使用を推奨された。ウマの状態は急速に悪化し、その日の夕方遅くには死亡した。州バイオセキュリティ当局で実施された血液および鼻汁、口腔粘膜、直腸スワブの PCR 検査により、ヘンドラウイルス

ス陽性と診断され、さらに他の 2 つの検査機関でも陽性が証明された。当該施設および近隣の施設は検疫下に置かれ、9 頭のウマが 32 日間、7 匹のイヌおよび 1 匹のネコが 24 日間臨床症状および血清の状態がモニタリングされた。ヒトおよび他の動物での症例は確認されず、全ての動物で血清学的にヘンドラウイルス陰性であった。

ヘンドラウイルス感染症はウマにおいて多様な臨床症状を呈し、最近では呼吸器症状よりも神経症状が強い場合が多い。ヘンドラウイルス感染症は以前にもタウンズビルで発生しており、2004 年 12 月に確認されている。1994 年以降、ヘンドラウイルスのウマへの感染は大分水山脈の東、クイーンズランド州ケアンズからニューサウスウェールズ州マックスビルにかけて確認されており、大分水山脈の西での発生はクイーンズランド州チンチラの 1 例のみである。州バイオセキュリティ当局は大規模な告知キャンペーンを含め、メディア、ウェブサイト、フェイスブックおよびツイッターを介して地域や馬飼養者へ情報を提供している。ヘンドラウイルスに関する資料集はオンラインでも入手可能である。

タスマニア州

(第一次産業・公園・海洋・環境省 メリー・ルー・コンウェイによる報告)

ウマのロスリバーウイルス感染症

夏の期間、タスマニア北部でウマの神経疾患が報告された。2010、2011 年にオーストラリア本土で発生した大規模なアルボウイルス感染症の流行をきっかけとしたウマアルボウイルス感染症サーベイランス強化の一環として、国家重要疾病調査プログラムにより数例の発生について、調査が実施された。今回報告されたロスリバーウイルスへの感染が疑われる症例は、タスマニアにおける一般的なロスリバーウイルス感染症とは異なる臨床経過を辿った。タスマニアにおいてロスリバーウイルス感染症はウマの風土病として認識されている。

最初の症例は、北東部で繋養されていた 6 歳のオーストラリアンストックホースの種牡馬で、神経症状が 6 週間続いた。この馬は気性が変化し（驚きやすくなる、放心状態となる）、2 週間後には症状が悪化し、重度の後肢運動失調、知覚過敏、馬房への収容拒否の症状が見られるようになった。この時点で、この馬は多年草のライグラス (*Lolium perenne*) 中毒が疑われたため、牧草の給与が制限された。抗炎症薬が投与され、その後の 4 週間で徐々に症状は回復した。この施設に繋養されているウマは、他に 1 頭のみであった。このウマは隣のパドックで飼育され、同様の牧草を摂取しており、罹患馬が移動させられるまではフェンス越しに接触があったものの無症状であった。罹患馬は血清学的検査によりフラビウイルスの感染は陰性であったが、最近ロスリバーウイルスに暴露されていた痕跡を認めた。血液サンプルは 1 検体のみであったが、ロスリバーウイルスが症状に関与しているものと思われた。この施設で蚊の幼虫を採取したところ、ベクターとなり得る蚊としては知られていない *Culex Fergusonii* と同定された。

2 例目は北中部で確認された。5 歳のサラブレッド種牡馬で、始めは一時的な軽度の疝痛と努力性呼吸を呈した。12 時間後に獣医師による診察を受けた際には、軽度の発熱 (38.5℃)、

心拍数の上昇（52 回/分）、粘膜の充血および腹部の浮腫を認めたほか、移動を嫌い歩様にはぎこちなさが認められた。治療には抗菌剤および抗炎症薬が使用された。このウマは回復したように見えたが、10 日後に再発した。同様の治療が繰り返され、さらなる再発はなかった。ロスリバーウイルス感染の確認後 11 日連続で血液サンプルを検査したが、フラビウイルス陰性であった。この施設で繋養されていた他の 25 頭に感染は認めなかった。夏の間、この地域での蚊の活動は過去には顕著であったが、今回は落ち着いていたために、蚊の幼虫は同定検査に提出されなかった。本症例の臨床症状は、過去に報告されたロスリバーウイルスと同様であったが、タスマニアにおいて再発の報告はまれである。

ニューサウスウェールズ州

報告事項なし。

ヴィクトリア州

報告事項なし。

南オーストラリア州

報告事項なし。

西オーストラリア州

報告事項なし。

2012 年第 2 四半期の報告

アルゼンチン

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

2012 年 6 月 7 日にサラブレッドで 1 症例報告があった。発生は限定的であり、INTA ウイルス研究所におけるウイルス分離および PCR 検査で陽性と診断された。この繁殖牝馬はワクチン接種されていた。この施設の妊娠馬は計 150 頭であった。

馬伝染性貧血 (EIA)

2012 年 4 月 13 日、ブエノスアイレスの乗馬クラブにおいて、7 頭の非サラブレッド種での発生報告があり、症例の最終報告は 5 月 9 日であった。発生は広範囲であり、SENASA（動物健康当局）により血清学的検査を用いて診断された。発生源は不明だが、この地域では夏期間に EIA の媒介昆虫（アブ属）が多いことが注目されている。

馬パラチフス

2012 年 6 月 22 日に最初の発生が確認され、最終報告は 6 月 30 日であった。1 施設において 100 頭中、11 頭の非サラブレッド種が妊娠 7 ヶ月の間に流産した。Cresal Veterinarian SA における菌分離により確定診断された。これらの繁殖牝馬は馬パラチフスに対するワク

チンを接種されていなかった。

オーストラリア

冒頭で述べたとおり、2012年の第1四半期の報告は、上記の通りである。

カナダ

報告事項なし。

チリ

報告事項なし。

デンマーク

報告事項なし。

フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークの RESPE から提供された情報)

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

2012年4月4日、オワーズ県のトレーニングセンターで EHV-1 の発生が確認された。罹患馬は3歳のサラブレッドで、臨床症状は鼻漏、食欲不振および発熱であった。鼻汁スワブのPCR検査により陽性と診断された。

2012年5月23日、オルヌ県で発生が確認された。罹患馬はフレンチトロッターで、鼻汁スワブのPCR検査で陽性と診断された。

2012年5月23日、シャラント・マリティーム県で発生が確認された。鼻汁スワブのPCR検査で陽性と診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

オート・マルヌ県の1施設において、フレンチトロッター3症例の報告があった。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

フレンチトロッターを繋養している2施設、サラブレッドを繋養している1施設、フレンチサドルブレッドを繋養している1施設を含む9施設で報告があった。9施設の所在地はカルヴァドス県、オルヌ県、コート・ドール県、オワーズ県、セヌ・エ・マルヌ県、ガール県およびヴァルド・ワーズ県であった。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

2012年4月に5件の発生が確認された。1件目はカルヴァドス県で発生し、3頭のサラブレッド繁殖牝馬で確認された。これは2011年に不顕性感染していたものであり、2012年の検査によって陽性が明らかとなった。2件目はマイエンヌ県の1頭のアングロアラブ繁殖牝馬であった。3件目はイル・エ・ヴィレーヌ県の1頭のフレンチサドルブレッド種繁殖牝馬であった。この馬は2011年12月に流産していたが、EVA未検査であった。4件目はオルヌ県の2頭のサラブレッド種牝馬であった。5件目もオルヌ県での発生であり、5頭のサラブ

レッド繁殖牝馬であった。オルヌ県の2件の発生は、異なる繋養場所での発生であった。

全ての症例の診断は繁殖牝馬の血清学的検査および2頭の種牡馬の精液を用いたウイルス分離により実施された。疫学調査が実施され、2頭の種牡馬の交配が中止された。このうち1頭は、2012年の繁殖シーズンに2頭の繁殖牝馬と交配していた。

馬インフルエンザ (EI)

2012年5月4日から21日にかけて、完全なワクチン接種がなされたフレンチサドルブレットとスポーツホースにおいて、5件の発生が確認された。内訳はカルヴァドス県3件、オワーズ県1件およびロワール・アトランティック県1件であり、それぞれ疫学的に関連があった。臨床症状は発咳、発熱および鼻漏であった。これらのウマはカルヴァドス県の1施設での大会に数回参加しており、10日齢の仔馬は死亡した。馬インフルエンザの確定診断は、すべての施設においてPCR検査により実施された。ウイルスはフロリダ亜系統のH3N8クレード2と同定された。罹患馬の繋養施設には規制が設けられ、全ての馬が隔離された。

5月25日、27日にワイペリンのトレーニングセンターで2件の発生が確認された。罹患馬はワクチン接種されており、臨床症状は発咳および鼻漏であった。診断は鼻汁のPCR検査により実施された。これらの2件の発生には疫学的な関連はなかった。同じフロリダ亜系統クレード2であったが、若干性状が異なっておりこの2件は同じ発生源ではないと考えられた。

4件目は5月25日にカルヴァドス県において確認された。罹患馬は非純血種の5歳牡馬でPCR検査により診断された。この馬は数日前にポルトガルから輸入された。ワクチン未接種で臨床症状は発咳および鼻漏であった。

6月15日、エソーネの乗馬クラブで1件の発生が確認された。罹患馬の臨床症状は発熱、発咳および鼻漏であった。鼻汁のPCR検査により診断された。計3頭の陽性が確認され、第2四半期の陽性馬の合計は17頭であった。

馬ピロプラズマ病

フランスでは、風土病として存在している。

ドイツ

馬伝染性貧血 (EIA)

第2四半期に1件の発生が確認された。5月15日、1頭のウォームブラッド繁殖牝馬が管轄当局により公式にEIAと診断された。この施設では他に4頭が繋養されていた。感染馬は東欧からの輸入馬で安楽死処置が実施された。この施設や検疫区域内での隔離を含むさまざまな規制および移動制限が実施された。疫学調査は現在実施中である。

Dr. Boese 研究所有限会社 (HBLB の CEMO 認定研究所) による検査結果

馬伝染性子宮炎 (CEM)

2頭のアイスランディックホースが感染し、陰核スワブおよび子宮頸管スワブのPCR検査により診断された。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1)

8頭が感染し、PCR検査により診断された。内訳は肺吸引液の検査を実施した死亡仔馬（1頭）、鼻汁検査を実施した呼吸器疾患を呈したウマ（3頭）、鼻汁およびEDTA血液検体の検査を実施した神経疾患を呈したウマ（4頭）であった。

馬ウイルス性動脈炎（EVA）

4頭のウォームブレット種牡馬が感染し、ウイルス分離および精液検体のPCR検査（生精液検体3頭、凍結精液検体1頭）により診断された。

ロタウイルス

1施設において2頭の仔馬が感染し、糞便のAntigen ELISAにより診断された。

腺疫

菌分離およびPCR検査により1頭の4歳騾馬の感染が確認された。

香港

報告事項なし。

アイルランド（共和国）

報告未着。

イタリア

痘疫

今のところ、更なる発生は報告されていない。

馬伝染性貧血（EIA）

2012年の上半期で38症例の報告があった。内訳はウマ29頭、ラバ8頭、ロバ1頭であった。26施設が初の報告であり、4施設は過去にも報告のある施設であった。

ウエストナイルウイルス（WNV）

2012年7月3日、サルディニアの1頭のウマにおいて感染が確認された。今のところヒトでの感染は報告されていない。

日本

ウマヘルペスウイルス-1（EHV-1）による流産

10施設で11頭のサラブレッド繁殖牝馬が感染し、最初の報告は2012年4月2日、最終報告は5月2日であった。北海道日高家畜保健衛生所において、ウイルス分離により診断された。発生は限局的であり、10頭はワクチン接種されていた。

馬パラチフス

4月12日、ワクチン未接種のアパルーサ1頭の感染が報告された。阿蘇家畜保健衛生所において、血清学的検査により診断された。

ニュージーランド

馬ウイルス性動脈炎

ニュージーランド馬健康組合の EVA 管理計画の下で管理されていた、最後の感染源である種牡馬が死亡した。EVA は 1988 年に感染したスタンダードブリード種牡馬を輸入したことによりニュージーランドに侵入した。1989 年以降、EVA 管理計画は馬健康組合と第一次産業省が協力して実施してきた。この計画は種牡馬に種付け前の血液検査を義務付け、また、感染源である種牡馬がどのように安全に交配できるかの対策についても含まれていた。2009 年以降、ニュージーランドには EVA の感染源となる種牡馬が 1 頭のみ生存していたが、2012 年 6 月 19 日に死亡した。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ共和国

報告未着。

韓国

報告事項なし。

スペイン

報告事項なし。

スウェーデン

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

最初の報告は 2012 年 4 月 24 日、最終報告は 4 月 27 日であった。SVA において、ウイルス分離により確定診断された。2 施設で 3 頭の感染が確認された。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

診断は菌分離によって実施された。3 施設で 7 頭以上の感染が確認された。このうち 1 施設での臨床症状は古典的で重篤であった。

スイス

アナプラズマ病

2012 年 6 月、スイス西部において 7 歳ウォームブラッド騾馬で 1 頭の感染報告があり、臨床症状は食欲不振および発熱であった。臨床症状および血液塗抹により診断された。オキシテトラサイクリンによる治療により治癒した。

馬グラスシックネス (EGS)

2012 年 5~6 月にかけて、3 施設において 12 歳および 16 歳のフレイバーガーと 3 歳のハフリンガー牝馬の計 3 症例が報告された。これらの症例は、当初疝痛症例として治療依頼

があったが、臨床診断および安楽死処置後の死後検査により EGS と診断された。

馬ピロプラズマ病 (*Babesia caballi* & *Theileria equi*)

4月にスイス西部および中部の非サラブレッド種で発生の報告があり、最後の症例報告は6月であった。血清学的検査および臨床検査により診断された。

トルコ

レプトスピラ症

2施設で3頭のサラブレッド種と非サラブレッド種が感染し、最初の報告は2012年5月20日、最終報告は6月20日であった。診断施設は Etlik VCRI であり、顕微鏡下凝集試験 (MAT) による血清学的検査により診断された。臨床症状は流産、発熱および食欲不振であった。

アラブ首長国連邦

馬ピロプラズマ病 (*Theileria equi*、*Babesia caballi*)

アラブ首長国連邦では、非サラブレッド種における馬ピロプラズマ病は風土病であり、定期的に症例報告がある。ドバイの中央獣医学研究所 (CVRL) において血清学的検査および病原体の分離によって診断が実施されている。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第2四半期中の臨時報告としてすでに発表していることに注意されたい。

アメリカ合衆国

水胞性口炎

5月下旬、ニュージャージー血清型による水胞性口炎がニューメキシコ州の1施設で確認された。その後、感染はニューメキシコ州の5郡17施設に拡大した。第2四半期の累計発生数は25症例であり、全てウマであった。ウシでの感染は報告されていない。16施設において、検疫および移動制限が実施されている。

腺疫

アイオワ州、ケンタッキー州、ニューヨーク州およびペンシルバニア州において腺疫の発生が確認され、細菌培養やPCR検査により診断された。州ごとの症例数は1症例から7症例 (ケンタッキー州) まで様々であった。以前報告したように、腺疫は多くの州で報告義務が課せられていないため、今回の報告は全米中の発生総数を必ずしも反映していないと思われる。

ウマヘルペスウイルス感染症 (EHV)

カリフォルニア州、インディアナ州、ケンタッキー州およびミズーリ州の施設において EHV-1 呼吸器型の感染が血清学的検査により確認された。また、EHV-2 がケンタッキー州 (6

症例)、EHV-5 がフロリダ州 (2 症例) およびケンタッキー州 (1 症例) で確認された。また、ケンタッキー州で EHV-3 の感染が数頭確認された。

馬ピロプラズマ病

2012年にはこれまで約18,600頭のウマに対して馬ピロプラズマ病の血清学的検査が実施された。この間、テキサス州で3頭のクォーターホースで *T. equi* 陽性が確認された。さらなる陽性馬 (1頭は *T. equi*、1頭は *B. caballi*) がフロリダ州で確認され、いずれも他国由来であった。その後アリゾナ州でもクォーターホース競走馬の *B. caballi* 陽性報告があった。陽性馬は州の検疫下に置かれるか馬ピロプラズマ治療研究センターに入所した。

東部馬脳炎

第2四半期は計35症例が報告された。フロリダ州およびミシシッピ州での報告が最多で、それぞれ10症例であった。その他はルイジアナ州 (8 症例)、ジョージア州 (4 症例)、サウスカロライナ州 (2 症例) およびニュージャージー州 (1 症例) であった。

ウエストナイル脳炎 (WNE)

第2四半期は、ペンシルバニア州、サウスカロライナ州およびテキサス州においてそれぞれ1頭ずつ、計3症例が確認された。

馬単球性エールリヒア症 (ポトマック熱)

ケンタッキー州 (16 症例) およびオクラホマ州 (1 症例) において、計17頭が馬単球性エールリヒア症と診断された。

ロタウイルス腸炎

ケンタッキー州で仔馬6頭の感染が確認された。

クロストリジウム腸炎

ケンタッキー州で *C. perfringens* typeA を原因とした9症例が報告された。PCR 検査により診断された。

ティザー病

ケンタッキー州において *C. piliforme* を原因とした1症例が仔馬で確認された。

サルモネラ症

かなりの症例数の報告があり、細菌学的検査により診断された。大部分はケンタッキー州であった。アラバマ州での感染は、25頭が未分類のサルモネラ菌、19頭がサルモネラ B 群、5頭がサルモネラ C1 群、1頭がサルモネラ C2 群の感染であった。

ベネズエラ

報告事項なし。